教 授　**三浦　俊彦**　MIURA, Toshihiko

1. 略歴

1983 年 3 月　東京大学文学部美学芸術学専修課程卒業
1983 年 4 月　同大学院総合文化研究科比較文学比較文化専門課程修士課程入学
1985 年 3 月　同修士課程修了
1985 年 4 月　同博士課程進学
1989 年 3 月　同博士課程単位取得退学
1989 年 4 月　和洋女子大学文家政学部英文学科専任講師
1994 年 4 月　和洋女子大学文家政学部英文学科助教授
1998 年 4 月　和洋女子大学人文学部国際社会学科助教授
2003 年 4 月　和洋女子大学人文学部国際社会学科教授
2008 年 4 月　和洋女子大学人文学群日本文学・文化学類教授
2015 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

分析哲学、美学

b 研究課題

フィクションの存在論の研究から出発し、虚構文の論理構造の解明から論理学の「可能世界」概念の応用へ、そして「可能世界」概念そのものの論理の研究へと進んだ。その過程で、自然科学の「多世界」「多宇宙」の概念と「可能世界」との関係の考察を迫られ、それらの概念に立脚した「人間原理」を方法的基盤とした諸議論の中で哲学問題を再構成する仕事を進めた。現在は、芸術の現状に対して人間原理的（進化論的）な説明を与え、見かけの法則性を観測選択効果へ還元する論理を追求しつつ、多分野を横断する「諸理論のネットワーク」の中に芸術定義論および認識論・ジェンダー論を主としたカテゴリ論全体を位置付けるプロジェクトを進めている。

c 概要と自己評価

哲学問題を人間原理の観点から考察し直す仕事については、心の哲学、ロボット科学、人文死生学といった分野の研究者と研究会を重ねる中で、着実に思索が進みつつある。人間原理の観測選択効果の論理構造を多くの領域に見出す作業とともに、長年の研究テーマであるフィクション論の人間原理的再構成を進めつつある。

中心課題である「芸術の定義」については、30 種類以上にわたる既成諸説を検討する中で、自分独自の定義を結晶化させつつある。方法としては、「美学芸術学」という学問分野名称から察せられるような美的定義のアプリオリな優位性を前提し、美的定義に対する有力な二つの反証を再反駁する形で進めている。反証の一つは、美的関心、美的経験といった「美的」カテゴリというものは実在しないのではないか、という問題。もう一つは、コンセプチュアルアート、ソーシャリーエンゲージドアートのような「美的でない（知覚的属性に依拠しない、あるいは無関心性に反する）芸術」の存在である。この二つを一度に解決できる提案として、「志向性による定義」を提唱する。既成の美的定義のうち最も洗練されたバージョン「美的関心を満たす性能を持たせる意図をもって作られた人工物」の「意図」の部分を、任意の志向性で置き換えるという提案である。これによって、芸術と美的カテゴリとの関係は、美的カテゴリの現実的存在を前提せずに済むようになり（志向的世界の中に実在しさえすればよい）かつ、志向された属性の肯定的形跡が制作物の中および周辺に見出されなくてもよいことになる（否定的もしくは他の関与的形跡があればよい）。この芸術定義は、反証を免れた美的定義となると考えられ、この方向での考察が目下順調に進みつつある。

なお、クリティカルシンキングの啓蒙的発信にも継続的に力を注いできたが、近年、ジェンダーをめぐるキャンセルカルチャーの動向に関する所見を適宜発表し、討論会なども催している。それらは以下の業績申告には含めないが、現場では極力、学術的成果を反映させるよう留意している。

d 主要業績

(1) 著書

単著、三浦俊彦、『東大の先生！ 超わかりやすくビジネスに効くアートを教えてください！』、かんき出版、2020.4
単著、外国語版『這就是邏輯学』、広東経済出版社、钟小源 訳、2021.6（『本当にわかる論理学』日本実業出版社、初版、2010.10）中国語（簡体字）版、p.296

⑵　論文

Toshihiko MIURA、”The Holistic Definition of Art” *JTLA 44*、9-19 頁、2020.6

三浦俊彦、「芸術形式としてのジョーク」、『美学芸術学研究』、38、pp.143-165、2020.7

三浦俊彦、「芸術の諸定義――同型対応による認識に向けて」、『美学芸術学研究』、39、225-248 頁、2021.7

⑶　研究報告書

三浦俊彦、「「芸術」の終焉と「芸術学」の終焉」、東京大学総長裁量経費プロジェクト「Sustainability と人文知」（2015 年度～2020 年度報告書）、2021 年 3 月、77-98 頁

⑷　小論、項目執筆

三浦俊彦、「バンクシーが世界でウケる 3 つの理由」、*PRESIDENT Online*、2020 年 6 月 8 日

三浦俊彦、「「違和感だらけの人生」にキレないための新提案」、『東洋経済オンライン』、2020 年 6 月 15 日

美学会編『美学の事典』、丸善出版、2020 年 12 月（「分析美学――20 世紀後半からの新たな流れ」pp.24-25、「芸術の定義・芸術作品の存在論」pp.58-59、「アートワールド――芸術の定義との関わりで」pp.78-79）

⑸　その他（ラジオ出演）

『DAYS』、原田龍二 DAYS「アートで逆転！」（日本放送）、2020 年 6 月 24 日

『STEP ONE』、「BEHIND THE SCENE」（J－WAVE）、2020 年 7 月 6 日

3.　主な社会活動

⑴　学会

国内、日本科学哲学会、『科学哲学』編集委員、2016.4～

国内、美学会、委員、2016.10～、副会長、東部会代表、2019.10～

国内、東大比較文学会、会員、2016.4～